愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	音楽表現技術		
担当者(Instructors)	酒井 国作	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	1	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本授業の目的は、子どもの音楽活動を支える表現豊かなピアノによる弾き唄いの演奏技能を習得することにある。保育所や幼稚園等で歌われる生活の歌を中心に、姿勢・呼吸・共鳴を意識した伸びやかな歌唱技術と曲の特徴や良さを生かしたコード伴奏の基本的な知識・技能を身につける。提出された課題は添削しコメントをつけて返し、授業での授業者による講評及び学生間の意見交流等を経て課題の理解を確かなものとする。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習、実技形式で行う。内容に応じて、ディスカッションやグループワークを取り入れる。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の目的・内容の理解と自己課題の設定	本授業のねらいと授業計画を理解した上で、自らの課題を明確にする。楽器の取り扱い、練習室の利用方法を確認する。	□
第2回	基本的な楽曲の成り立ちと歌唱に適した姿勢の理解	「こぎつね」などの弾き歌いを通して、基本的な楽曲の成り立ちと発声に適した「姿勢」について学び、自身の声域を確認する。	□
第3回	子どもの声域と子供の歌に特徴的なリズムの理解	「朝のうた」「おべんとう」などの弾き歌いを通して、子供の声域と”タッカ”のリズム、２拍子を学ぶ。	□
第4回	呼吸と基本的な楽曲構造の理解	「朝のうた」「おべんとう」などの弾き歌いを通して、「呼吸」を意識した発声をし、３つの部分からなる楽曲のスタイルを学ぶ。	□
第5回	共鳴の理解と音楽の表情変化への意識	「おかえりのうた」「さよならのうた」などの弾き歌いを通して、「共鳴」を意識した発声をし、４拍子を学ぶ。さらにストーリーに合わせた音楽の表情変化を意識する。	□
第6回	主要三和音とアルベルティ・バスなど伴奏のバリエーションの理解	「おかえりのうた」「さよならのうた」などの弾き歌いを通して、ハ長調の主要三和音を確認し、さらに分散和音やアルベルティ・バスなどの伴奏のバリエーションを学ぶ。	□
第7回	前奏・後奏の効果的な用い方の理解	「おかえりのうた」「さよならのうた」などの弾き歌いを通して、前奏・後奏の役割と「生活のうた」への取り入れ方を学ぶ。	□
第8回	今までの学習の総括と振り返り	クラス内で演奏発表を行い、意見交換をしながら今までの学習を振り返る。「姿勢・呼吸・共鳴」を再確認する。	□
第9回	ト長調・ヘ長調のコード進行の理解	「山の音楽家」「お正月」などの弾き歌いを通して、ト長調・ヘ長調のコード進行を学び、歌詞の内容にふさわしい歌唱表現を工夫する。	□
第10回	さまざまな調のコード進行の理解	実習園から出されたさまざまな課題曲などへの取り組みを通して、3拍子や6拍子などのさまざまな拍子や、ニ長調などのさまざまな調のコード進行、楽曲スタイルについて学ぶ。	□
第11回	さまざまな音楽表現技法の理解	実習園から出された課題曲などへの取り組みを通して、奏法上の記号について学び、レガートやスタカートなどの表現を工夫して演奏する。	□
第12回	イメージを豊かにする音楽表現の工夫	実習園から出された課題曲などへの取り組みを通して、日本語の発音や意味に注意しながら、それにふさわしい音楽表現を工夫する。	□
第13回	身体表現と音楽表現の関係の理解	音楽表現と身体表現との結びつきを意識しながら、課題曲をより表情豊かに演奏する方法を習得する。	□

第14回	総合的な表現活動へのアプローチ	今までの学習内容を生かして、楽譜を手掛かりに歌の特徴を考え、テンポ、リズムに注意しつつ、実習園での活動を意識しながら子どもの表現活動を引き出す演奏表現を試みる。	□
第15回	表現活動を引き出す弾き唄いの実践と鑑賞	クラス内で演奏発表を行い、子どもの表現活動を引き出す弾き唄いはどのようにあるべきかを意見交流することにより、幼児期の子どもへの音楽の果たす重要性を知る。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、練習の過程で わかったことや疑問に思うこと・質問したいことなどを楽譜やノートに整理する(2時間程度)。 事後学習として、授業で出された課題を楽譜に書き込み、歌詞を口に出して読み、リズム打ちやコード分析をして楽曲理解したのちに、弾き唄いの習得を目指し歌唱および伴奏の練習をする(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された課題は添削しコメントをつけて返却する。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	歌詞内容と基礎的な楽曲分析から、歌の特徴を説明することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	カデンツなどのコード進行のはたらきから曲の構成がわかり、歌と伴奏の階層的な構造を生かした演奏表現ができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
	40%			60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

その他は、平常の授業での取り組みおよびクラス内演奏発表の評価を含む。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト/カワイ出版	9784760903382
2	必要に応じて資料を配布する。	
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		